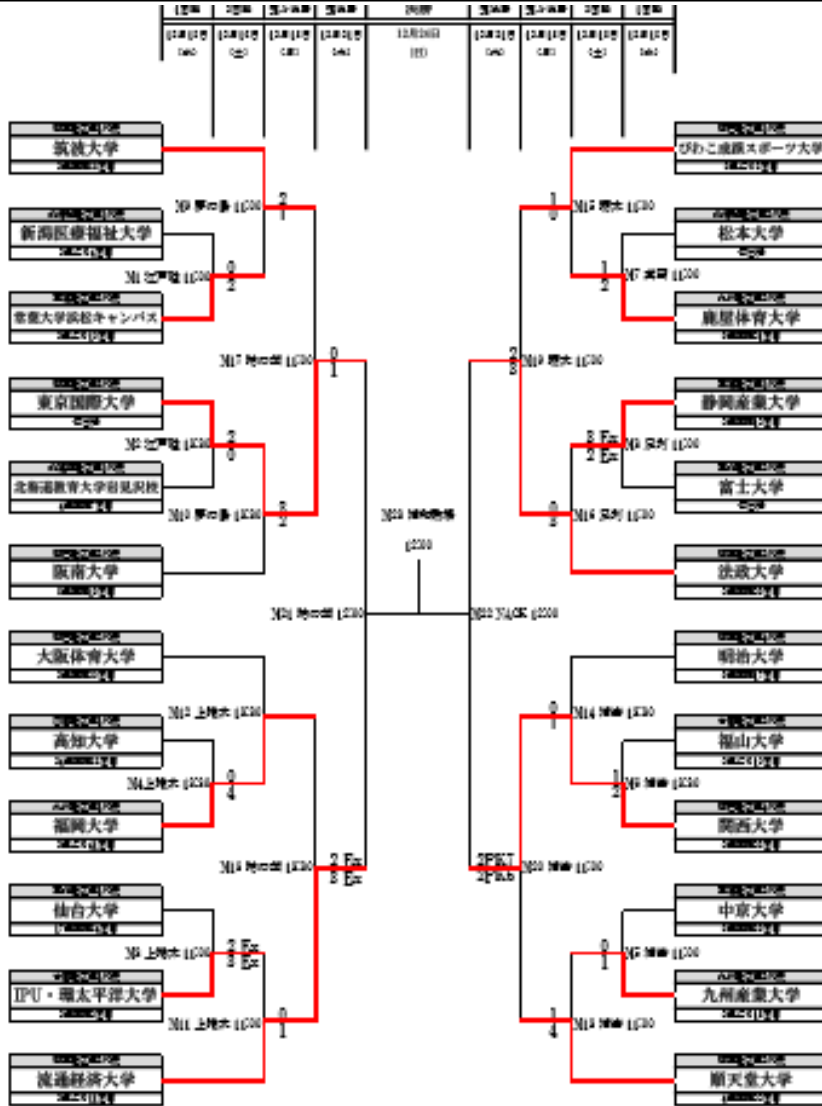


展望

OFFICIAL MATCH DAY PROGRAM No.2

発行:一般財団法人 全日本大学サッカー連盟
協力・文:内藤悠史



【決勝 12/24】Jクラブ内定者サイン会開催

関東大学サッカーリーグ戦からJリーグクラブへの来季加入が内定した選手のサイン会を開催します！

また、同イベント会場におきまして、内定者の名前と背番号入りのユニフォーム型ストラップも販売。

どなた様もご参加いただけるイベントですので奮ってご参加ください♪

未来のJリーガーたちの、貴重な大学時代のサインを逃すな!!

○日時：12月24日(日) 決勝戦(12:00KICKOFF)の終了後

○会場：浦和駒場スタジアム 場外広場

※決勝戦が延長戦に入れた場合はサイン会開始時間を繰り下げます。

※準決勝終了後にサイン会参加選手を発表します。直前に変更となる可能性もございますので、ご了承ください。

※内定者のユニフォーム型ストラップは当日のみの個数限定販売となります。

東京国際大学 vs 流通経済大学

12月21日(木) 12:00

柏の葉

初出場ながら準決勝進出を果たした東京国際大学。4年連続出場の北海道教育大学岩見沢校、Jクラブ内定3選手を擁する阪南大学、そして前回王者にして今季の関東覇者・筑波大学と、難敵を次々と撃破した。準々決勝では開始早々にPKで先制し、1点を守り切って勝利。FW町田ブライト(3年)を出場停止で欠く中、前田秀樹監督は従来の4-4-2ではなく、中盤の枚数を増やして守備に重きを置いた。「リーグ戦では前線からプレスをかける戦い方をしてきたが、今回はこの手しかない。筑波大が一番嫌がるやり方だったかな」と指揮官が振り返ったように、パスワークでリズムを構築する王者の攻撃を封じ込んでみせた。前田監督は「よく頑張った。集中力が勝因」と選手たちを称えていた。

対する流通経済大学は2回戦から登場し、IPU・環太平洋大学を相手に1-0で勝利。準々決勝の福岡大学戦は打ち合いとなったが、延長後半終了間際にFWジャーメイン良(4年/仙台加入内定)がPKを決めて3-2と競り勝った。フィジカル対策として長身の選手を先発に並べた中野雄二監督は「もう少し堅い試合になると思っていたが、常に先手を取れて良かった」と振り返り、抜擢したDFアピアタウィア久(1年)の名を挙げて「よくやってくれた。収穫はある」と称賛。総合力を問われる短期決戦で、1年生が奮闘したことは好材料だ。そして指揮官は「今季はリーグ戦も総理大臣杯も3位。ポイントになる試合で勝てなかった。次の準決勝が大事」と、中2日での戦いを見据えていた。

東国大は9日間で4戦目。疲労が蓄積する中、出場停止が解けるFW町田の復帰は朗報だ。プレスを多用する従来の戦い方に戻すのか、守備を固めるのか。前田監督の決断にも注目が集まる。対する流経大は1回戦シードという優位性はあるものの、3日前の準々決勝では唯一13時30分開始の試合で、しかも120分の激闘を戦い抜いただけにコンディション状態が気になるところだ。関東リーグでは1勝1敗だった両者の激突。決勝への切符を掴むのは、果たして。

法政大学 vs 関西大学

12月21日(木) 12:00

NACK5

関西大学は1回戦、終了間際の劇的弾で福山大学に競り勝つと、2回戦では難敵・明治大学を1-0と完封で破った。そして準々決勝では順天堂大学の攻撃を必死に防ぎ、1-1で延長戦へ。立ち上がりに勝ち越しを許したものの、延長後半アディショナルタイムにFW竹下玲王(4年)が起死回生の同点ゴールを決めてPK戦へ持ち込む。8人目での決着となった死闘を制し、ベスト4へ駒を進めた。前田雅文監督は「ワンチャンスモノにして前半を1-1で終えたことが大きかった」と、しぶとく追い付いた粘りを評価。120分でシュートわずか5本と苦しんだが、勝負強さを見せ付けた。指揮官は「チームで戦えば強いと思っている」と、準決勝にも総力戦で挑む姿勢を強調していた。

一方、総理大臣杯との2冠を狙う法政大学は2回戦から登場し、静岡産業大学に3-0と快勝した。準々決勝では関西王者・びわこ成蹊スポーツ大学に2度追い付かれたものの、終盤にFW松澤彰(2年)が値千金の決勝弾。途中出場でも2戦連発と波に乗る長身ストライカーの活躍で打ち合いを制した。長山一也監督は「セットプレーやカウンターへの対応は修正しなければ」と失点の場面を振り返りつつ、「自分の役割を最後まで全うしてくれた」と選手たちを称えている。2試合連続3得点での準決勝進出は総理大臣杯と同じ流れだ。U-20日本代表のタイ遠征からFW上田綺世(1年)も合流し、準々決勝でさっそく途中出場。中2日で迎える準決勝では先発の可能性もあるだろう。指揮官の采配に注目したい。

攻撃陣が好調の法大がボールポゼッション率を高める展開が予想されるが、関西大は仮に先制を許しても粘り強く戦い、少ないチャンスを活かす決定力を示してきた。法大FW松澤、関西大FW竹下と、スーパーサブ的な活躍を見せる両アタッカーの存在も見逃せない。法大の長山監督は「交代選手がキーになる」と言い切っていた。2冠を狙う法大か、関西勢最後の雄・関西大か。終了の笛が鳴るまで目を離せない、熱戦必至の準決勝が始まる。

◆Twitter: @JUFA_soccer

全会場・全試合リアルタイム速報



◇Instagram: @jufa_japan

大会期間中の感動の名シーンの振り返り



◆公式HP

<http://www.jufa.jp/>

随時、情報をお知らせ

